

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	文化と他者性		
英文授業科目名	Culture and Otherness		
開講年度	2006年度	開講年次	3、4年次
開講学期	5、7学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>このセミナーは、文化人類学を受講し興味をもった学生に、その応用編として具体的な対象、テーマを取り上げることで、さらに関心を深め学んでいくという目的をもっている。今期の試みは、私が長年研究対象としてきたイラン、そして現在も進行中のフィールドワークによる農村調査を取り上げ、イラン農村の過去の民族誌を読みながら、文化人類学的研究について考える。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
とくになし。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
文化人類学A、もしくは文化人類学B

<b>【教科書等】</b>
<p>教科書：大野盛雄「イラン農民25年のドラマ」1990、NHKブックス                      参考書：上岡弘二編「アジア読本・イラン」1999、河出書房新社                      桜井啓子「現代イラン—神の国の変貌」</p>

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

教科書を読み進みながら、イランの農村というマイクロ世界で演じられる人びとの生活のドラマを通して、1960年代の農地改革、農業機械化等による農村の近代化、70年代のオイル・ブーム、80年代のイスラム革命の激動が与えた影響を読んでいくとともに、一農村に入り村人と付き合いながらフィールドワークをするという文化人類学の仕事と、異文化に戸惑う日本人の私たちの存在を考える。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

- 1) 平常点、出席や発表や課題で評価、50%
- 2) 学期最後のレポートの課題、50%

### 【オフィスアワー：授業相談】

授業の日のみしか、登校しませんので、授業の前後に捕まえるか、アポイントを取ってください。

### 【学生へのメッセージ】

専門には関係のない科目でしょうが、日ごろの生活や身近な興味や問題関心から離れて、もっとも縁のない、イランの農村に思いを馳せてみましょう。

### 【その他】